

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K21232

研究課題名（和文）社会的要因が中高生アスリートの心理的安全性と幸福感に及ぼす影響に関する調査

研究課題名（英文）The influence of social factors on psychological safety and well-being in youth sport

研究代表者

木下 敬太（Kinoshita, Keita）

早稲田大学・スポーツ科学大学院・助教

研究者番号：50907152

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、中高スポーツ参加者の心理的安全性に指導者とチームメイトの敬意を欠いた行動がどのように影響を及ぼすかを調査した。本研究は、3時点における縦断的データ収集を行い、心理的安全性の変化に指導者とチームメイトがどのように影響を及ぼし、心理的安全性の変化が中高スポーツ参加者の心理的ウェルビーイングや向社会行動にどのような影響を及ぼしているかを調査した。本調査より得られた結果は、コーチとチームメイトの敬意を欠いた行動は、心理的安全性の3時点での心理的安全性の変化にネガティブな影響を及ぼし、心理的ウェルビーイングと向社会行動にもネガティブな影響を与えるという結果が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中高生年代におけるスポーツ参加における指導のあり方や、子ども同士の関わり方についてさまざまな議論が飛び交う昨今において、ほんのちょっとした敬意を欠いた行動が、スポーツチームにおける失敗を恐れてチャレンジがし辛い環境を作り出し、子どものスポーツを通じた健全な育成にネガティブな影響を与えるということが本研究を通して理解できた。

研究成果の概要（英文）：This research project investigated how the disrespectful behaviors of coach and teammates influence youth sport participants. The study collected longitudinal data at three time points to investigate how coaches and teammates incivility influence changes in psychological safety and how the changes in psychological safety influence psychological well-being and prosocial behavior of the sport participants. The results showed that coach and teammate incivility influenced the change in psychological safety over time. The change in psychological safety was significantly associated with youth athletes' well-being and social outcomes.

研究分野：スポーツマネジメント

キーワード：スポーツマネジメント ユーススポーツ ウェルビーイング 心理的安全性 インシビリティ

1. 研究開始当初の背景

スポーツは本来、人々が幸せになるための道具である。しかし、近年、中高生アスリートの幸福感は大きな課題のひとつであり、日本のスポーツ界において、体罰やパワハラ、セクハラなどといった様々な問題やその背景にある組織の構造を問題視する報道が後を耐えない。そこには社会的な要因(指導者やチームメイトの行動など)が大きく影響することが指摘されている。社会的な要因(コーチや保護者、チームメイト)は中高生アスリートの幸福感に大きな影響を与える重要な因子である(Ryan & Deci, 2017)にも関わらず、どのようなメカニズムで社会的な要因が中高生アスリートの幸福感に影響を与えるかという知識の蓄積は未だ不十分である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会的な要因が中高生アスリートの幸福感にどのようにするかというメカニズムを解明し、アスリートの幸福感向上のための組織として行うべき方策を見出すことであった。

3. 研究の方法

理論的仮設モデルの検証を行う。具体的には、中高スポーツチーム(部活動も含む)約20チーム(1チーム30人程度で $n = 600$ を目標とする)に心理尺度を用いてデータ収集を行う。二か月ごとに合計三回(2021年度5月、7月及び9月)のデータ収集を実施する。測定項目は、コーチの敬意を欠いた行動、チームメイトの敬意を欠いた行動、心理的安全性、心理的(持続的)ウェルビーイング、バーンアウト、社会的責任、向社会行動、反社会行動とした。収集したデータは、分散分析や共分散構造分析を行うことでモデルの整合性・妥当性の検証を行い、コーチならびにチームメイトの敬意を欠いた行動は、心理的安全性の変化を介して、中高スポーツ選手のアウトカム(心理的(持続的)ウェルビーイング、バーンアウト、社会的責任、向社会行動、反社会行動)に影響するだろうという仮説を検証した。

4. 研究成果

本研究は、3時点における縦断的データ収集を行い、心理的安全性の変化に指導者とチームメイトがどのように影響を及ぼし、心理的安全性の変化が中高スポーツ参加者の心理的ウェルビーイングや向社会行動にどのような影響を及ぼしているかを調査した。本調査より得られた結果は、コーチならびにチームメイトの敬意を欠いた行動は、心理的安全性の3時点での変化にネガティブな影響を及ぼし、心理的ウェルビーイングと向社会行動にもネガティブな影響を与えるという結果が見られた。すなわち、コーチ及び、チームメイトの敬意を欠いた行動はチーム内の心理的安全性に負の影響を与え、その結果、チーム内での心理的ウェルビーイングや選手の行動に影響を与えることがわかった。

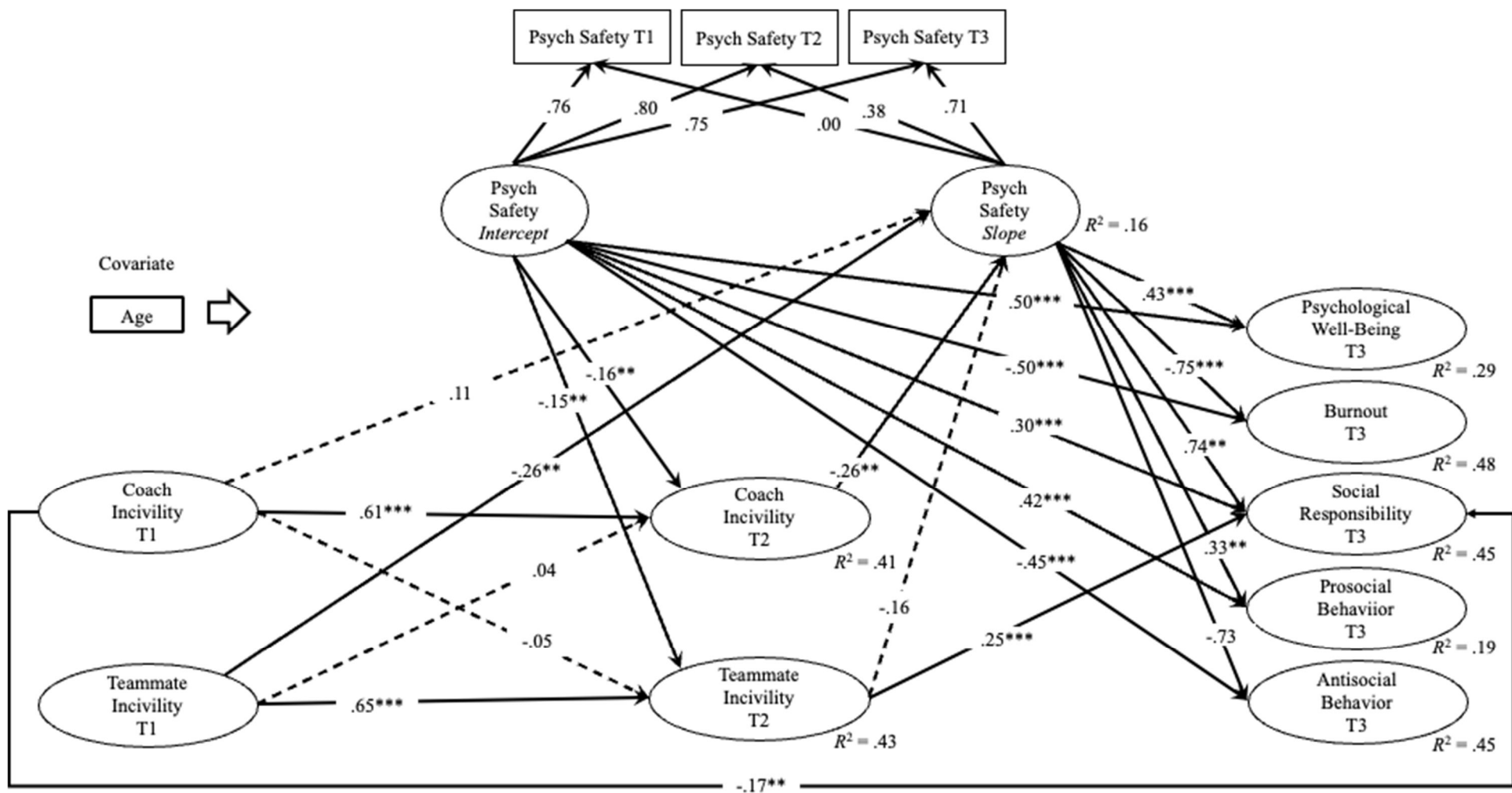


図 1. 仮説モデルの検証結果

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Keita Kinoshita
2. 発表標題 Incivility and Psychological Safety in Youth Sport: The Reciprocal Effects and Its Impact on Well-being and Social Outcomes
3. 学会等名 16th European Congress of Sport and Exercise Psychology (FEPSAC) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------